

市誌編さん事業の今後について(たかはま歴史・文化保存活用事業) (案)

事業概要	目的	平成28年度から令和2年度にかけて実施した「市誌編さん事業」では、新たな市誌をつくるという成果とともに、課題も浮き彫りとなりました。「高浜市の歴史をつむぎ、つなぐための人づくり」、「市民同士が学び合い、高め合う機会の創出」、「生涯学習やまちづくりのツールとしての郷土資料の積極的な活用」、「文化行政全体(文化財保護、かわら美術館、図書館)の連携」、「つむぐ、つなぐ作業の継続と、市民への発信」。これらの課題を克服し、市民のまちへの愛着や誇りを生みだすことを目的とします。		
	対象	市民		
	事業内容	新たな高浜市誌や、その編さん過程で得た膨大な資料をツールとし、毎年継続的に発行してきた『高浜市のあゆみ資料』の発行、たかはま歴史・まちづくりシンポジウムの開催などとともに、整理資料の美術館展示での活用等を行いながら市民への情報のアウトプットを進めます。また新たに「市誌を読む会」の開催や、美術館での市民参加型展示、市誌を用いた図書館でのレファレンスなどを行い、高浜市の歴史をつむぎ、つなぐための人材の育成、市の歴史や文化に触れる市民のすそ野をひろげていきます。		
	目指す成果	①先人たちのあゆみやまちの魅力・自慢が市民の共有財産として継承され、まちづくりに生かされます。 ②市民ひとりひとり、さらに市民同士が自発的に学びの機会・場を創出します。 ③市民と行政が手を取りあいながら、まちの魅力・自慢そのものである“郷土資料”(モノ・コト)を『保存』→『記録』→『活用』するしくみができます。		
実績	事業費	平成30年度決算額	令和元年度決算額	令和2年度予算額
		11,950 千円	11,383 千円	19,962 千円
評価	事業の自己評価課題等	『新たな高浜市誌の編さん』という目標は達成されますが、この本をどのように活用するかがより重要です。市誌編さん委員会においても、「本棚の肥やしにならないように」という意見は、この事業が始まった当初から挙がっています。「どのようなかたちで市民の手にとってもらえるのか」、「掲載内容をどのように広め、市民の生涯学習やまちづくりの現場で役立ててもらえるのか」、「整理資料をどのように活用していくのか」など、課題は多くあります。市の歴史や文化の伝道師となる「人づくり」のしくみを市誌をツールに整えていくことも必要です。		
令和3年度以降	目標	①市民に新たな市誌の内容をアウトプットする「市誌を読む会」を、タカハマ！まるとと宝箱事業と連携して開催します。【人づくり】【市民同士が学び合い、高め合う機会の創出】 ②『高浜市のあゆみ資料』の第5弾を発行します。【つむぐ、つなぐ作業の継続と、市民への発信】 ③市誌編さん事業で整理した資料を、かわら美術館の展示に活用します。【郷土資料の活用】【文化行政全体の連携】 ④市誌の内容をテーマにした、たかはま歴史・まちづくりシンポジウムを開催します。【市民同士が学び合い、高め合う機会の創出】	達成時期 令和4年3月	
	手法	これまでの市誌編さん事業は、「編さん委員会(諮問)」「編集委員会(調査・執筆)」という2つの組織が両輪となって進んできました。しかし令和2年度の市誌刊行をもって、編集委員会は解散します。また同じタイミングで、編さん委員会も任期満了となります。 よって令和3年度以降は、編さん委員会の役割や組織を見直し、調査・執筆という側面を持たせていくことを考えています。また、この委員会がハブとなりながら、高浜市の文化関係全般の事業を結び付けていきます。		

① 新たな市誌編さん委員会の活動

・これまでの取り組みを継続・発展させ、『高浜市のあゆみ資料』の発刊、普及活動の検討を行うためには、令和2年度で任期満了となる編集委員会の跡を継ぐ組織が必要です。そこで、令和3年度からは市誌編さん委員会がその役割を果たすべく、体制を改めます。

具体的には、現在の編集委員会委員長及び部会長5名を核とし、編さん委員会委員の中で今後の活用におけるキーマンとなる方、さらに編集委員会委員の中から高浜市のあゆみ資料の執筆に関わる方の計15名程度で組織することを検討しています。

② 資料整理【文書資料から民俗資料へ】

・市誌編さんの過程で、本の執筆に必要な文書資料・考古資料の整理はある程度進み、さらなる精査は必要なものの、リスト作成まで終えることができました。今後の課題としては、資料を公開するための素材を整える(すべての資料のデータ化)とともに、郷土資料館に保管されている膨大な民俗資料(生活用具など)の整理です。民俗資料と文書資料の両者が整理・活用されていくことで、市民がよりまちのことを知り、愛着がわくことにつながります。

③ 『高浜市のあゆみ資料』の発刊

・前回の市誌の大きな課題は、取り組みが途中で途切れてしまったことです。これにより、約40年にもわたるこのまちのあゆみを「つむぐ・つなぐ」ということができませんでした。

この反省を生かし、細く・長く、高浜市のあゆみ資料の発刊を通して、市のあゆみを未来へつないでいきます。冊子の補足調査や執筆に関しては、編さん委員会委員が担当し、冊子の内容に関しても、編さん委員会内で検討していきます。

④ 「市誌を読む会」「たかはま 歴史・まちづくりシンポジウム」の開催

・この2つの取り組みは、市誌の成果をアウトプットし、市民にまちの魅力を知ってもらう場を創出していくこと、市民が学び合い・語り合いながら、学びの輪を広げていくことが目的です。さらには、市誌を読む会を継続していくことで、そこで定着した方々を「(仮称)たかはま歴史・文化サポーター」として、資料整理やあゆみ資料作成のための補足調査に関わっていただける人材として育成していきます。

ただし今後、講座形式や、多人数が集まる取り組みができない可能性もあります。その場合は、かわら美術館のモノコトギャラリーやホール、郷土資料館でのミニ展示、高浜市のあゆみ掲載資料やゆかりの場所をめぐる映像等の発信(市ホームページ、フェイスブック等)などを進めながら、市民の学びのきっかけになる取り組みを行うとともに、そのような活動に市民を巻き込んでいきます。

⑤ 各所と連携した、市の歴史・文化の発信

・かわら美術館企画展、図書館のレファレンス、市広報、文化財保護委員会による新規文化財指定など、『高浜市のあゆみ』の内容を生かす場は多々あります。各所と連携しながら、『高浜市のあゆみ』の成果を積極的にアウトプットし、さらには市の文化事業全体をつなげられるような取り組みに展開していきます。